

社会システム研究科 社会システム研究科 博士後期課程 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■地域社会領域	企業経営研究 (読替科目：企業経営研究) 王 効平	1学期		2	14
	企業会計研究 (読替科目：企業会計研究) 白石 和孝	1学期		2	15
	都市犯罪研究 (読替科目：都市犯罪研究) 朴 元奎	1学期		2	16
	都市情報工学研究 (読替科目：都市情報工学研究) 吉田 祐治	1学期		2	17
	政策法務研究 休講	1学期		2	
	社会行動研究 松尾 太加志	1学期		2	1
	地域臨床教育研究 (読替科目：地域臨床教育研究) 楠 凡之	1学期		2	19
	地域産業集積研究 柳井 雅人	1学期		2	2
	地域福祉政策研究 休講	1学期		2	
	都市環境政策研究 (読替科目：都市環境政策研究) 松本 亨	1学期		2	21
	都市政策論研究 (読替科目：都市政策論研究) 奥山 恭英	1学期		2	22
	都市社会研究 (読替科目：都市社会研究) 稲月 正	1学期		2	13
	高齢者福祉研究 休講	1学期		2	
	地域観光研究 休講	1学期		2	
	地域社会演習 稲月 正	2学期		2	3

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■地域社会領域	社会心理研究 (読替科目：社会心理研究) 田島 司	1学期		2	18
	地域イノベーション研究 (読替科目：地域イノベーション研究) 吉村 英俊	1学期		2	
■思想文化領域	市民政治思想研究 (読替科目：市民政治思想研究) 中道 壽一	1学期		2	23
	市民経済思想研究 小柳 公洋	2学期		2	
	日本語文化研究 矢野 準	2学期		2	5
	英語文化研究 休講	1学期		2	
	中国語文化研究 (読替科目：中国語文化研究) 佐藤 昭	1学期		2	26
	思想文化演習 佐藤 真人	2学期		2	
	人間環境研究 (読替科目：人間環境研究) 竹川 大介	1学期		2	32
	多文化コミュニケーション研究 (読替科目：多文化コミュニケーション研究) 漆原 朗子	1学期		2	
	文化交流史研究 (読替科目：文化交流史研究) 八百 啓介	1学期		2	34
	日本文化研究 休講	1学期		2	
	英文学研究 (読替科目：英文学研究) 木原 謙一	1学期		2	24
	現代英文学研究 田部井 世志子	1学期		2	
	アメリカ文化論研究 (読替科目：アメリカ文化論研究) 吉川 哲郎	1学期		2	28

社会システム研究科 社会システム研究科 博士後期課程 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■思想文化領域	米文学研究 (読替科目：米文学研究) 前田 譲治	1学期		2	29
	比較文学研究 (読替科目：比較文学研究) ダニエル・ストラック	1学期		2	31
	中国文化研究 (読替科目：中国文化研究) 板谷 俊生	1学期		2	25
	中国哲学思想研究 (読替科目：中国哲学思想研究) 鄧 紅	1学期		2	27
	比較文化研究 (読替科目：比較文化研究) ロジャー・ウィリアムソン	1学期		2	30
	東アジア政治研究 (読替科目：東アジア政治研究) 下野 寿子	1学期		2	35
■東アジア社会圏領域	東アジア経済研究 (読替科目：東アジア経済研究) 尹 明憲	1学期		2	36
	東アジア国際関係研究 (読替科目：東アジア国際関係研究) 金 鳳珍	1学期		2	37
	東南アジア政治研究 (読替科目：東南アジア政治研究) 田村 慶子	1学期		2	39
	東南アジア歴史文化研究 (読替科目：東南アジア歴史文化研究) 伊野 憲治	1学期		2	40
	東アジア社会圏演習 下野 寿子	2学期		2	7
	国際協力研究 (読替科目：国際協力研究) 大平 剛	1学期		2	43
	東アジア政治史研究 (読替科目：東アジア政治史研究) 小林 道彦	1学期		2	38
	アメリカ市民政治論研究 (読替科目：アメリカ市民政治論研究) 中野 博文	1学期		2	41
	イギリス社会研究 (読替科目：イギリス社会研究) 久木 尚志	1学期		2	42

社会システム研究科 社会システム研究科 博士後期課程 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■東アジア社会圏領域	現代中国政治研究	1学期		2	
	休講				
■国際開発政策コース	Multinational Corporations (読替科目 : Multinational Corporations) エリック・ラムステッター	1学期		2	44
	Seminar in International Development Policy エリック・ラムステッター	2学期		2	8
	Economic Growth and Development (読替科目 : Economic Growth and Development) 今井 健一	1学期		2	45
	International Migration and Economic Development (読替科目 : International Migration and Economic Development) 戴 二彪	1学期		2	46
	Numerical Analysis (読替科目 : Numerical Analysis) 坂本 博	1学期		2	47
	特別研究 (D)IIA (読替科目 : 特別研究 (D)IIA) 稲月 正 他 各研究指導教員	1学期	2	2	48
		2年			
特別研究 (D)IIB (読替科目 : 特別研究 (D)IIB) 稲月 正 他 各研究指導教員	2学期	2	2	49	
		2年			
特別研究 (D)IIIA 吉田 祐治 他 各研究指導教員	1学期	3	2	9	
		3年			
Special Research Topics (D) 3A 戴 二彪 他 各研究指導教員	1学期	3	2	10	
		3年			
特別研究 (D)IIIB 吉田 祐治 他 各研究指導教員	2学期	3	2	11	
		3年			
Special Research Topics (D) 3B 戴 二彪 他 各研究指導教員	2学期	3	2	12	
		3年			
■関連科目	社会システム特別講義I 未定	1学期		2	
	社会システム特別講義II 未定	2学期		2	

社会行動研究 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

現代都市社会の課題を社会的行動に焦点を合わせて探り、社会的政策への提言を作成するための研究方法を考察する。特に、さまざまな場面での機械を利用する上でのヒューマンインタフェースの問題、ヒューマンエラーによる事故防止、新しいメディアを利用したコミュニケーションのあり方などの今日的で重要課題とされている問題を取りあげ、これらの問題の背景にある社会のおよび認知的心理過程を検討する。国内外の文献購読により、最新の知見、理論、研究方法を展望する能力を育てる。心理学の主要な研究技法である実験や質問紙調査について、データの収集およびその分析技法を学ぶ。到達目標は、社会的課題の問題発見、解決能力という実践的な研究能力を養うことである。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回～14回 実験や調査の研究事例について、受講生が文献レビュー。あるいは、受講者自身が取り組んでいる研究課題について発表をする。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

できる限り多くの論文を読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域産業集積研究【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

産業集積に関するテキスト、論文等を輪読してゆく。テキスト、論文等に基づき、報告とディスカッションを中心として授業を進めることとする。学生は、この講義を通して、産業集積やクラスターの理論と実態について系統的に学習することができます。授業の到達目標は以下の通りです。

- ① 立地論および集積論の基礎力をつけること。
- ② 現実の集積を立地論を用いて体系的に理解すること。
- ③ 集積地の現状について知識を深め、その政策的対応について提言できる力を持つこと。

教科書 /Textbooks

各回ごとに、いくつかの論文を詳しく紹介し、輪読することとする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 基礎的集積理論の習得
- 3回 基礎的集積理論の習得
- 4回 基礎的集積理論の習得
- 5回 基礎的集積理論の習得
- 6回 基礎的集積理論の習得
- 7回 基礎的集積理論の習得
- 8回 基礎的集積理論の習得
- 9回 基礎的集積理論の習得
- 10回 現代的集積理論の応用
- 11回 現代的集積理論の応用
- 12回 現代的集積理論の応用
- 13回 現代的集積理論の応用
- 14回 現代的集積理論の応用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・ 10% 課題・・・ 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

過去において、産業論、立地論、地域経済論などを学習した経験があること。
学部で開講している経済地理学I、IIもしくはそれと同等の内容の講義を過去に履修していることが必須である。
事前学習としてテキスト対応箇所に関する経済記事等に目を通しておくこと。また事後学習として、授業で指摘された課題について学習を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

立地論の基礎力をもとに、現実の集積が理解できる水準になることをめざす。

キーワード /Keywords

産業集積、クラスター、競争優位、価値連鎖

地域社会演習 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

地域社会分野に関する個別具体の研究テーマを、履修学生と相談した上で決定する。ただし、一旦決定された個別具体の研究テーマについては、その後の変更は認めないので、履修学生の問題意識について、予め可能な限り明確にしておくことが望まれる。また、本演習の進め方として、履修学生の自主的な問題意識を解明することに寄与し得る柔軟かつ論理整合的思考方式の修得を、その第一義的な目的とする。したがって、学位論文の作成を視野に入れた講読、調査報告、研究発表などを行う。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、個別具体的に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、個別具体的に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
履修学生の理解度に配慮しつつ、履修学生の問題意識に応じたReading Assignmentを課す。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と研究報告の内容によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

履修学生の理解度に配慮しつつ、履修学生の問題意識に応じたReading Assignmentを課す。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民経済思想研究【昼】

担当者名 /Instructor 小柳 公洋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「経済学と市民社会論」という視座から、現代までの経済学説の流れを、アダム・スミス、カール・マルクス、アルフレッド・マーシャル、ジョン・メイナード・ケインズをメインにして論じます。
 市場経済の発展と「成熟した」市民社会の関係を考察するのが本講義の目的です。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。最初に15回分の拙著講義レジメを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

市民社会論関係は、とくに1990年代に多数の文献が刊行されたので、はじめにその一覧表を配布する。
 スミス、マルクス、マーシャル、ケインズ関係も多くの研究書があるのでそのつど文献目録を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の序次で講義する。

- 1 市民社会とは何か
- 2 - 4 Adam Smith 『道徳感情論』(1759)、『国富論』(1776)
- 5 - 7 Karl Marx (1)初期マルクスの思想 (2)『資本論』(1868)
- 8 - 9 Alfred Marshall 『経済学原理』(1890)
- 10 - 11 John M.Keynes 『雇用・利子・および貨幣の一般理論』(1936)
- 12 - 13 現代の市民社会論の諸問題(大企業問題、普遍性の問題)
- 14 - 15 現代資本主義と「成熟した」市民社会

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートないし論文

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

市場経済 市民社会

日本語文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ① 日本語をからめて、日本文化の形成を考えていく。
- ② 言語生活史としての表記史、印刷史、などを追いつつ、日本文化を考える。
- ③ 日本文化の種々相の知識を提供。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、適宜、プリントを配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時間中に、必要に応じて、配付プリントなどで提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 あらまし
- 2回 漢字の受容史【真名】【音と訓】【万葉仮名】【抄物書】
- 3回 仮名の受容史【平仮名】【カタカナ】
- 4回 仮名遣受容史【定家の仮名遣】【定家仮名遣】【歴史的仮名遣と現代仮名遣】
- 5回 文字・表記の諸問題【縦書きと横書き】【国語政策としての表記問題】
- 6回 日本の暦【太陰太陽暦】【太陽暦】
- 7回 日本の書物1【写本】【版本】
- 8回 日本の書物2【出版取り締まり】【書物問屋と地本問屋】
- 9回 日本の学問1【歌学】【相通説】
- 10回 日本の学問2【本居宣長】【富士谷成章】
- 11回 日本の文学1【韻文】
- 12回 日本の文学2【散文】
- 13回 原典を読む1【変体仮名】
- 14回 原典を読む2【草双紙】
- 15回 まとめ

【 】は

、各回のキーワード。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 65% 日常の授業への取り組み... 35%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

漢字 仮名 仮名遣 国語政策 グレゴリオ暦 書誌 変体仮名 黄表紙 合巻

思想文化演習 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 地域における市民社会、市民文化の新しい構想・創造に寄与できるよう地域研究、地域政策研究の思想・文化的背景の基礎研究を行う。思想文化領域の担当指導教員が学生自身の自主的な調査研究活動を重視しつつ、教員との議論を通して問題解決に役立つ実践的で柔軟な思考方法を学生に修得させる。このため学位請求論文の作成を視野に入れた講読、調査報告、研究発表などを行わせる。

教科書 /Textbooks
 受講生と相談の上で、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習の中で、その都度提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1～15回
 最初の演習において提示する。

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への参加度と研究報告の内容によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 演習の中で、その都度提示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア社会圏演習 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

東アジア社会圏の政治、経済、文化を理論的・実証的に研究する。この研究は北九州市の地域研究、地域政策研究を補完する。東アジア社会圏担当指導教員が学生自身の自主的な調査研究活動を重視しつつ、教員との議論を通して問題解決に役立つ実践的で柔軟な思考方法を学生に修得させる。このため学位請求論文の作成を視野に入れた講読、調査報告、研究発表などを行わせる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、個別具体的に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、個別具体的に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
最初の演習において提示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と研究報告の内容によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習の中で、その都度提示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor エリック・ラムステッター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar is to develop further the theoretical knowledge and practical skills of students to carry out independent research on selected topics in the study of international development policy. Faculty members of the International Development Policy course participate in the seminar, individually or as a team, to work together with students to deepen their understanding of the field by applying their theoretical knowledge to policy oriented issues for finding meaningful solutions. In this seminar, students are required to show their own initiatives to explore the current academic frontier and to acquire practical skills necessary for initiating their individual research.

教科書 /Textbooks

Necessary reading materials will be specified by each faculty member.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Necessary reference materials will be specified by each faculty member.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1)~(15)

Class schedule and contents vary following the academic field of each faculty member.

成績評価の方法 /Assessment Method

Course evaluation is based on class participation and research report.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

This seminar is offered in English only.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (D)IIIA 【昼】

担当者名 吉田 祐治 他 各研究指導教員
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

3年次に予備論文を基にしてそれを一層拡充・発展させる方向で個別的・具体的指導を行い、学位請求論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、個別に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
最初の授業において提示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と研究報告の内容によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

[事前・事後学習の内容]
授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Special Research Topics (D) 3A 【昼】

担当者名 /Instructor 戴 二彪 他 各研究指導教員

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for all the third year students in International Development Policy course. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorial with the thesis advisor. Students who are enrolled in the program in October are required to prepare and submit a final 'Thesis' by the end of May of the third year to receive a PhD. degree.

教科書 /Textbooks

No textbook is specified.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No list of references is specified.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1) ~ (15)

Class schedule and contents are prepared by individual thesis advisor.

成績評価の方法 /Assessment Method

Students must defend the submitted thesis at an official presentation before the evaluation committee set up by the Faculty Council.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

This course is offered in English only.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (D)IIIB 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 他 各研究指導教員

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description
 3年次に予備論文を基にしてそれを一層拡充・発展させる方向で個別的・具体的指導を行い、学位請求論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks
 必要に応じて、個別に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて、個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1～15回
 最初の授業において提示する。

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への参加度と研究報告の内容によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 [事前・事後学習の内容]
 授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Special Research Topics (D) 3B 【昼】

担当者名 戴 二彪 他 各研究指導教員
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

This course is a compulsory tutorial for all the third year students in International Development Policy course. Its aim is to prepare students for developing their basic and theoretical knowledge as well as research methodology through individual contacts and advisory tutorial with the thesis advisor. Students who are enrolled in the program in April are required to prepare and submit a final 'Thesis' by the end of November of the third year to receive a PhD. degree.

教科書 /Textbooks

No textbook is specified.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No list of references is specified.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1) ~ (15)

Class schedule and contents are prepared by individual thesis advisor.

成績評価の方法 /Assessment Method

Students must defend the submitted thesis at an official presentation before the evaluation committee set up by the Faculty Council.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

The course is offered in English only.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市社会研究 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	都市を社会学的に分析するための専門的知識を習得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。		
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	△	都市の課題を社会学的な観点から分析し解決に向けた政策を構想する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市社会研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

文献レビュー（テキスト批評）を通して、都市社会学の理論と分析方法について理解を深める。
 文献は、なるべく受講生の専門にそよう配慮する。
 なお、授業は演習形式も交えて行う。

教科書 /Textbooks

文献リストを用意し、最初の授業で決定する。なるべく受講生の研究領域・テーマ・関心にそったものを選ぶ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション - 目的・進め方・テキストの選定
- 第2回 都市社会学の理論的潮流
- 第3回 テキスト批評
- 第4回 テキスト批評
- 第5回 テキスト批評
- 第6回 テキスト批評
- 第7回 テキスト批評
- 第8回 テキスト批評
- 第9回 テキスト批評
- 第10回 テキスト批評
- 第11回 テキスト批評
- 第12回 テキスト批評
- 第13回 テキスト批評
- 第14回 テキスト批評
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 70% 日常の授業への取り組み... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者（報告者）は、自分が紹介する文献について（1）概要、（2）内容要約、（3）論点の整理、（4）議論を記したレジユメを用意する必要がある。

都市社会研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業経営研究 【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 地域経済の担い手である企業の経営構造に関する基礎的専門的知識を学ぶ。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	△ 地域社会の活性化のために学んだ知識を活用することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

企業経営研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

国際経営比較の観点から、多国籍企業の経営国際化の背後にある論理を探りながら、特に東アジア新興工業国の持続的高成長を牽引してきたアジア財閥系企業を対象に、その経営構造を押さえた上、経営国際化の特徴の分析に焦点を絞る。深い相互依存関係にある東アジア地域の経済発展のダイナミズムを日本の地域経済活性化のために如何に取り込み、活かすかとの問題意識を持ちながら、フィールドワークを続けてきたが、現地調査で得た一次資料や情報を共有するようにフルに提供する考えであるが、聴講者の皆さんにも同様の姿勢で臨んで頂き、深い洞察力と分析力を養っていききたい。授業計画に従って、討議形式で進める。

教科書 /Textbooks

院生と協議して決める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩崎育夫著 『現在アジア政治経済学入門』 東洋経済
- 牧戸孝郎編著 『岐路に立つ韓国企業経営』 名古屋大学出版会
- 王効平著 『華人系資本の企業経営』 日本経済評論社
- 王効平他著 『日中韓企業の経営比較』 税務経理協会
- 久保巖著 『世界財閥マップ』 平凡社
- 末廣昭著 『アジアのファミリービジネス』 名古屋大学出版会
- 末廣昭著 『キャッチアップ型工業化論』 名古屋大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講院生の研究テーマ・関心領域の確認、本科目の狙い、進捗方法に関する説明、テキストの決定
- 第2回 アジア型企業経営に関する概説
- 第3回 企業制度分析の視点
- 第4回 経営システム分析の視点
- 第5回 地域上場企業の種類・整理
- 第6回 韓国財閥系企業の経営制度
- 第7回 韓国系企業の経営システム
- 第8回 華人財閥系企業の経営制度
- 第9回 華人財閥系企業の経営システム
- 第10回 日本の同族企業の経営制度
- 第11回 日本の同族企業の経営システム
- 第12回 東アジア域内における総合的比較分析
- 第13回 東アジア域内事業連携の事例研究I
- 第14回 東アジア域内事業連携の事例研究II
- 第15回 まとめ

企業経営研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

討議への参加度 & 発表の出来栄 50%
課題の完成度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定参考文献・配布資料を熟読すること
各種関連資料を進んで収集すること
問題意識をもち、討議に反映させること
通常の発表とは別に、数回課題を課す予定で、課題の提出を厳守すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

通常少人数参加のため、ゼミ形式で進める予定で、長時間発表の心の準備をして頂きたい。
研究者としての個性、強みを存分に出して頂きたい。

キーワード /Keywords

企業会計研究 【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 企業会計の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

企業会計研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

企業会計の主要な基本的・現代的課題を取り上げ、個別具体的な検討を行う。講義では、「発表者による発表→解説→質疑応答・ディスカッション」を毎回繰り返し行うことになるので、必ず予習し、議論に積極的に参加するようお願いしたい。そのほか、毎回講義の最初には「会計に関する重要な新聞記事」を取り上げ、詳しく解説したいと考えている。本講義のねらいは、企業会計が抱える基本的な重要課題を十分に理解したうえで解決の方途を見出すことにある。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義〈第16版〉』（中央経済社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

醍醐聰『会計学講義【第4版】』（東京大学出版会）、白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）、小松章編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』（中央経済社）など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中級～上級会計学のテキストを輪読する。企業会計の主要な基本的・現代的課題を取り上げ、個別具体的な検討を行いたい（発表→解説→質疑応答・ディスカッション）。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 80% ディスカッションへの参加... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習は必ずしておくこと。

企業会計研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市犯罪研究 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 犯罪学的視点より都市社会の構造的諸問題の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市犯罪研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「地域社会（都市コミュニティ）と犯罪」をテーマに、1920年代後半に生成したいわゆる「シカゴ学派」による伝統的な生態学的研究（シヨール＝マッケイ等）と1970年代中葉以降に復活したシカゴ学派の新しい理論的發展を分析・検討することが、本講義の目的である。アメリカの都市コミュニティから生まれた社会学的犯罪学の理論が果たして北九州の地域社会における犯罪・非行問題を説明する理論としてどこまで有効・妥当であるかを考究したい。

教科書 /Textbooks

Cook, P. J. et al., (2014). Some Sources of Crime Guns in Chicago: Dirty Dealers, Straw Purchasers, and Traffickers. *Journal of Criminal Law & Criminology* 104 (4): 717-760,
 Hagedorn, J. M. (2015). *The Insane Chicago Way: The Daring Plan by Chicago Gangs to Create a Spanish Mafia*. Chicago:University of Chicago Press.
 Sampson, R. J. (2012). *Great American City: Chicago and the Enduring Neighborhood Effect*. Chicago: University of Chicago Press.
 Wikstrom, P. H. (1998). *Communities and Crime*. In M. Tonry (Ed.), *The Handbook of Crime and Punishment* (pp.269-301). New York: Oxford University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

①Brantingham, P.J. & Brantingham, P.L. (Eds.). (1981). *Environmental Criminology*. Beverly Hills,CA: Sage.
 ○② マーカス・フェルソン（守山正訳）『日常生活の犯罪学』（日本評論社、2005年）
 ○③Maguire, M., Morgan, R. & Reiner, R. (Eds.). (2002). *The Oxford Handbook of Criminology* (3rd ed.). Oxford: Clarendon Press
 ○④Reiss, A.J. and Tonry, M. (Eds.). (1986). *Communities and Crime*. Chicago: University of Chicago Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 履修学生と相談の上、分担を決めテキストを輪読する。
- 3回～14回 以下同じ
- 15回 まとめ（レポート提出）

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部においてすでに「犯罪学」「刑事司法政策I&II」あるいは大学院においてすでに「刑事学」などを受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。
 テキストの指定された箇所を事前に読み込んでおくこと。授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

都市犯罪研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市情報工学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	○ 地域社会の現実的な諸問題を解決する様々な数理的な方法の技能を身につける。
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市情報工学研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代社会では、氾濫する情報の中で予測が難しいものになりつつあります。情報の不確実な性質を論じ、その中で経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考えます。本演習では、ファジィ関係表現をもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析します。

教科書 /Textbooks

- S.M.Ross 'Introduction to Probability Models', Academic Press
- G.J.Klir & Bo Yuan 'Fuzzy Systems and Fuzzy Logic: Theory and Application', Prentice Hall

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報に関する不確実性【蓋然性、偶然性】【あいまい性】【不確実性と不確定性】
- 2回 同上
- 3回 時系列の情報システムにおける不確実性【確率過程】【ファジィ・システム】【複雑系システム】
- 4回 同上
- 5回 不確実性を伴うシステムの数理的表現【マルコフ過程】【ファジィ推論システム】【カオス・システム】
- 6回 同上
- 7回 不確実性環境下での個人やグループ全体としての意思決定の方法【効用理論】【可能性理論】【必然性理論】
- 7回 同上
- 9回 客観的数理的評価法と主観的数理的評価法【平均評価】【積分評価】【主観的積分評価】【順序付け法】【多目的評価法】
- 10回 同上
- 11回 不確実性環境下での時間を伴う意思決定の方法【動的計画法】【最適性の原理】【マルチンゲール法】
- 12回 同上
- 13回 数理工学的計算法【差分近似法】【モンテカルロ・シミュレーション】【変分法】
- 14回 同上
- 15回 不確実環境での人工知能的意思決定法【preferences】【aggregation】【学習モデル】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のゼミへの積極的な取り組み・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

都市情報工学研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

[事前・事後学習の内容]
授業で与えられた課題を各自で調べ、次回の授業までにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

不確実性、意思決定法

社会心理研究 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 地域の諸課題に関わる社会心理学の基礎的な専門知識を身に付ける。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	△ 地域社会における課題を社会心理学の切り口からとらえ、意欲的に分析できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会心理研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

社会心理学的に研究するために必要な体系的な知識や研究方法の枠組みを提供し、人間関係の様々な問題に共通して関わる基礎的な機制を議論する。現代社会において研究の対象となる現象は幅広いが、中でも特に、個人内の心理過程でアイデンティティや自己観との関わりから生じる様々な葛藤が、対人関係、集団行動等の中でどのように顕在化するか、また、そのような葛藤を解決させるために生じる個人の行動が、対人関係や集団行動等にどのような変化を起こしうるのか、というテーマを中心とする。社会心理の基礎理論に重点を置きつつも、受講生各自の研究テーマの発展に寄与するよう考慮した授業とする。

各受講生が関心を持つ地域社会におけるある特定の課題について、それに関連する社会心理学理論を探し出し、理解し、説明できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

特に定めない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回～ 1 4 回文献の紹介、もしくは自身が進めている研究についての発表
- 1 5 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告とディスカッション...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域臨床教育研究 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 地域社会での心理・教育・福祉に関わる諸問題に関する基礎的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	○ 子育て支援や青少年問題に実践的に取り組むために求められる技能を修得する。
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域臨床教育研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では、1. 児童虐待問題への理解と援助・介入について、2. 知的障害、「発達障害」を持つ子ども・青年への自立支援、3. 現代社会における青少年問題の発生機序とその克服に向けての援助・介入について、などのテーマについて、参加者の実践フィールドや興味・関心に合わせて検討を進めていきたい。
 その際には、可能であれば、参加者からの具体的な実践報告、事例報告も受けながら、教育臨床や地域福祉、さらには児童虐待や青少年犯罪予防の問題について検討していきたいと考えている。

教科書 /Textbooks

テキスト等については、参加者と相談して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文献購読
- 3回 文献購読
- 4回 文献購読
- 5回 文献購読
- 6回 文献購読
- 7回 文献購読
- 8回 文献購読
- 9回 個人研究発表
- 10回 個人研究発表
- 11回 個人研究発表
- 12回 事例報告
- 13回 事例報告
- 14回 事例報告
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域臨床教育研究【昼】

履修上の注意 /Remarks

実践現場におられる方は是非とも事例・実践報告の準備をお願いしたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

青少年問題の発生機序、児童虐待問題、発達障害・知的障害

地域イノベーション研究 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	○ 都市の実状を定性的かつ定量的に分析し、適宜数学的手法を活用しながら課題及び要因を見出す。その後、実現性を踏まえた具体的な政策を提言する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域イノベーション研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

わが国経済のグローバル化と地方分権化、いわゆるグローカлизацияが進展する中であって、地域の果たす役割はこれまで以上に大きくなってきている。地域は中央政府による外発的な支援に期待することなく、自らの地域に蓄積する多様な資源及び特性を活用した内発的な発展を志向していかなければならない。この内発的な発展に向けた方策の一つに、“イノベーションの振興”がある。

以下の2つの問題意識のもと、講義を行っていききたい。

一つ目は「どのようにしたら地域においてイノベーションが促進されるのか。これまで各地域で展開されてきた産業支援機関の整備や支援制度の充実とはほぼやり尽くされた感があり、今一度原点に戻って、その構造解明を図り、方策を講じる必要があるのではなかろうか」というイノベーション構造に起因するもの。

二つ目は「地域には拠点となる都市が散在し、それぞれが県域等の中心になって地域の発展をリードしている。これらの都市が特徴を活かして連携し、地域として総合力を発揮することができるならば、国内においては有数の経済圏として、また海外においてもリーダーシップを発揮することができるのではなかろうか」という都市創生の方向を問うもの。

以上の講義をとおして、地方におけるイノベーションの実状を理解し、都市創生の方向性について自身の考えを提案できるようにする。

教科書 /Textbooks

『イノベーション構造と都市創生』（吉村英俊）海鳥社 2,625円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

地域イノベーション研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	地域産業・科学技術政策の変遷
第2回	北九州市の産業再生の軌跡～産業支援基盤の充実強化による地域産業の高度化
第3回	北部九州地域の産業とイノベーションの現状
第4回	北九州市のベンチャー企業及び研究開発型企業の現状と課題
第5回	地域イノベーション構造の解明
第6回	新規事業展開における都市選択
第7・8回	イノベーションを担う人材の吸引 <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市の成長とイノベーションを担う人材の関係 ・ イノベーションを担う人材の就業意識 ・ イノベーションを担う人材が評価する都市の特性・機能
第9回	都心に期待される機能
第10～12回	創造都市形成の方途 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内の都市にみる創造都市形成の現状 ・ 海外の都市にみる創造都市形成の現状 ・ 北九州学術研究都市の現状
第13回	イノベーション促進に向けた都市連携
第14・15回	北部九州地域としての総合力形成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 北部九州地域のポテンシャル ・ 福北連携による地域のハブ形成

成績評価の方法 /Assessment Method

討論やレポートなどにより総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に教科書や配布した参考文献を読んでおくこと。また講義後は、適宜レポートを課す。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市環境政策研究【昼】

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 都市の環境管理・改善に必要な政策に関する専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	○ 都市環境問題に関わる現実の諸問題に、身につけた専門的知識が適用可能であることを発見する。
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市環境政策研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

北九州市をはじめとする日本の経済発展と環境問題への対応は、現在、環境問題に直面するアジア等の諸国の先行モデルとして高い移転可能性を持つと言える。途上国の諸都市がそれぞれの置かれた状況を踏まえ、日本の環境対策の成功と失敗の経験を教訓として活かしていくことができれば、日本がかつて経験したような深刻な公害問題を回避することが可能である。さらに、後発性の有利さを活かすことによって、今後、効率的な環境対策の実施を行うことも可能である。そこで、環境問題の発生メカニズムとその対策について、日本及びアジアの諸都市の比較研究を行う。さらにアジアを中心とした途上国への移転可能性について考察する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

勝原健『東アジアの開発と環境問題：日本の地方都市の経験と新たな挑戦』勁草書房
 土木学会環境システム委員会編『環境システム』共立出版
 日本の大気汚染経験検討委員会編『日本の大気汚染経験』ジャパンタイムス
 日本水環境学会編『日本の水環境行政』ぎょうせい
 『Environmental Performance Reviews: Japan』OECD
 『Future Cities: Dynamics and Sustainability』Kluwer Academic Publishers
 ほか多数（講義中に指示する）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～3回 日本の公害対策経験と北九州モデル
 第4～6回 東アジア都市の都市環境管理の比較と北九州モデルの適用可能性
 第7～9回 都市環境管理の方向と評価基盤
 第10～12回 新たな都市環境政策の潮流
 第13～14回 事例研究
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な参加 20%
 事例報告及び討論 30%
 期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回授業で配付するレジュメをよく読み込んでおくこと。
 また、授業で指示されたことを授業の事前事後に学習し、準備すること。

都市環境政策研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公害対策、環境計画、都市環境マネジメント、低炭素・循環型社会

都市政策論研究【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 都市政策に関する理論・分析手法・実践に係わる専門知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	△ 都市政策に係わる実際の課題を抽出・分析し、実践的な政策提言に繋げることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市政策論研究

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義のテーマは「都市政策の経済分析」であり、そのねらいは都市経済学の紹介と都市政策の分析・評価を試みることにある。したがって、その個別具体的な内容として「都市がなぜ存在するのか」という基本問題に対する経済理論的な解明に加えて、「市場の失敗」や「政府の失敗」についての基礎的理解を深める。また、その応用として各種の都市政策 - 例えば土地問題、住宅問題、都市財政、都市交通、環境問題等 - に着目し、その有効範囲と限界について考察する。

教科書 /Textbooks

適宜指定する（英文図書の場合もあり）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金本良嗣・蓮池勝人・藤原徹著『政策評価ミクロモデル』東洋経済新報社（2006）
上田考行編著『Excelで学ぶ地域・都市経済分析』コロナ社(2010)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション・ガイダンス
- 2回 Introduction and Industrial Location
- 3回 Spatial Distribution of Activities
- 4回 Spatial Structure of the Urban Economy
- 5回 Urban Policy Analysis
- 6回 Advanced Topics on Urban Economic Analysis
- 7回 Regional Specialization and Trade I
- 8回 Regional Specialization and Trade II
- 9回 Regional Specialization and Trade III
- 10回 Term Paper Topics Presentation and Discussion
- 11回 Labor Market Analysis
- 12回 Regional Growth
- 13回 Regional Policy Analysis
- 14回 Advanced Topics on Regional Economic Analysis
- 15回 Term Paper Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における学習深度、20%：授業内討論、30%：期末のレポート、50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の知識は必須、および微分積分と線形代数、計量経済学の知識を推奨する。

都市政策論研究【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

都市・地域の計量経済分析を理論・手法・実際の側面から学習する。広範な知識と興味があれば都市や地域を多くの側面から分析することが可能となる。

キーワード /Keywords

都市経済学、地域経済学、地域科学、都市政策

市民政治思想研究【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	現代デモクラシー論を形成するシティズンシップ、自治、差異性、公共性など基本的なエレメントの専門的知識を備える。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	政治制度および政治システムの創造、改革、変革のプロセスと、それを支える政治文化の変化との関係を、市民政治思想の視点から理解する。	
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	新たな政治、新たな市民社会のあり方に寄与し、方向付けを与えることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

市民政治思想研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

テーマ「現代デモクラシー論」

政治制度および政治システムの創造、改革、変革のプロセスと、それを支える政治文化（政治的価値体系）の変化との関係を、市民政治思想の視点から比較研究する。グローバル・デモクラシー、ラディカル・デモクラシーなどの現代デモクラシー論を形成するシティズンシップ、自治、差異性、公共性など基本的なエレメントについて検討し、新たな政治、新たな市民社会のあり方について検討する。

教科書 /Textbooks

これまで、千葉真『ラディカル・デモクラシーの地平』新評論や山口定『市民社会論』有斐閣を手がかりに「新しい公共性」「新しい市民社会」について議論してきた。昨年度は、受講生との相談の上、杉田敦『デモクラシーの論じ方』ちくま新書、篠原一編『討議デモクラシーの挑戦』岩波書店、宇野・田村・山崎『デモクラシーの擁護』ナカニシヤ書店などを読み議論した。今年度は、受講生の研究テーマとの関係で、受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ヤン・ヴェルナー・ミューラー『カール・シュミットの「危険な精神」』(ミネルヴァ書房)(○)
 イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』(慶應義塾大学出版会)(○)
 ジグムント・バウマン『政治の発見』(日本経済評論社)(○)
 J・リンスなど『大統領制民主主義の失敗』(南窓社)(○)
 中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィ』(日本経済評論社)(○)
 また、その都度提示する。

市民政治思想研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画・内容については、以下の通りです。

- 第1回 テーマ「現代デモクラシー論」について
- 第2回 現代デモクラシー論に関するテキストの選定について(2冊選定)
- 第3回 現代デモクラシー論A(1冊目のテキスト:たとえば、杉田敦『デモクラシーの論じ方』)についてのレジュメによる発表、議論
- 第4回 現代デモクラシー論A(1冊目のテキスト)についてのレジュメによる発表、議論
- 第5回 現代デモクラシー論A(1冊目のテキスト)についてのレジュメによる発表、議論
- 第6回 現代デモクラシー論A(1冊目のテキスト)についてのレジュメによる発表、議論
- 第7回 現代デモクラシー論A(1冊目のテキスト)についてのまとめ
- 第8回 現代デモクラシー論A(1冊目のテキスト)と受講者の研究テーマとの関係についてのまとめ
- 第9回 現代デモクラシー論B(2冊目のテキスト:たとえば、篠原一編『討議デモクラシーの挑戦』)についてのレジュメによる発表、議論
- 第10回 現代デモクラシー論B(2冊目のテキスト)についてのレジュメによる発表、議論
- 第11回 現代デモクラシー論B(2冊目のテキスト)についてのレジュメによる発表、議論
- 第12回 現代デモクラシー論B(2冊目のテキスト)についてのレジュメによる発表、議論
- 第13回 現代デモクラシー論B(2冊目のテキスト)についてのまとめ
- 第14回 現代デモクラシー論B(2冊目のテキスト)と受講者の研究テーマとの関係についてのまとめ
- 第15回 2冊のテキストを前提としたテーマ「現代デモクラシー論」についてのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的取組、分担発表などによる総合評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表のためのレジュメ作成

履修条件は、現代デモクラシー論に関心を持っていることのみ。専攻を問いません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難しいテーマや本も、みんなで読み議論すると、何らかの解決方法が見つかるものです。これまでの殻を破るためにも、積極的に参加しましょう。

キーワード /Keywords

本を読み、議論する中で、新たな知見を得ることの楽しさを味わってほしい。

英文学研究【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	英文学研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	英文学研究の知識を現実生きる上で活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	英文学研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英文学研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

文学批評の実践的訓練。

教科書 /Textbooks

The Collected Poems of W. B. Yeats (Scribner)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指摘。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

W. B. Yeatsの代表的な詩作品を読む。その際、一つ一つの作品がアイルランド独立運動においてどのような意味を持っているかに留意したい。毎回、一つの詩について実際に批評を書き、参加している全員でその内容について議論する。

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 "Pardon, Old Fathers"を読む
- 第3回 "The Wild Swans at Coole"を読む
- 第4回 "An Irish Airman Foresees His Death"を読む
- 第5回 "The Fisherman"を読む
- 第6回 "Easter 1916"を読む
- 第7回 "The Second Coming"を読む
- 第8回 "A Prayer for My Daughter"を読む
- 第9回 "Sailing to Byzantium"を読む
- 第10回 "Among School Children"を読む
- 第11回 "Lapis Lazuli"を読む
- 第12回 "The Circus Animals' Desertion"を読む
- 第13回 "Under Ben Bulbin"を読む
- 第14回 W. B. Yeatsの描いたアイルランドについて
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素(毎回の課題)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英文学研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

課せられたエッセイを準備してくる。毎回指摘されたテキストを読み、その背景等について十分に調査を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	地域社会研究・社会システム研究に必要な中国文化研究上の基礎的専門的知識を修得する。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	○	地域社会に関わる現実の諸課題に、身につけた中国文化研究上の専門的知識が適用可能であることを確認する。	
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	地域社会に関わる新しい構想・創造において、中国文化研究をふまえて、新しい方向付け等に関連づけることが可能であることを確認する。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国文化研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅「中国小説史略」）の紹介、中国近代白話小説-魯迅「狂人日記」「阿Q正伝」および中国に初めてイブセン劇が紹介され、西欧の小説・戯曲が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した茅盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

教科書 /Textbooks

藤井省三著「魯迅事典」（2002年 三省堂）
「魯迅文集」（筑摩書房）他

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木山英雄訳「魯迅の紹興」（岩波書店）
「中国現代文学史」（北京外文出版社）
「中国文学家辞典」（四川文藝出版）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回：中国近代と嚴復『天演論』（トーマス・ハクスレー『進化と倫理』）の影響について
- 第3回：中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回：義和団事件と女性解放運動のパイオニア・秋瑾について
- 第5回：魯迅と故郷紹興および作品集「呐喊」について
- 第6回：魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回：魯迅と辛亥革命について
- 第8回：啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回：五四新文化運動と西欧文学・思想の受容について
- 第10回：イブセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回：五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回：革命文学論争—「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回：中国左翼作家連盟成立とその活動について
- 第14回：国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習・発表状況...50% レポート...50%

中国文化研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

多くの資料を読み、レポートを提出してもらうのでしっかり準備して授業に臨んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○ 中国語音韻の変遷発展の歴史についての専門的知識を身に付ける。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△ 現代中国語方言における音韻の多様で複雑な分布状態をたがいに密接な関係があるものとして捉えることができる。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△ 中国の言語文化の現状について、新しい構想に寄与し方向付けを与えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国語文化研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国語は古代から現代まで長い歴史を持ち、種々の変化を重ねて発展してきた。そして今日の中国語は、過去のさまざまな変化を引き継いだ結果として、話し言葉としては無数の方言に分かれているという状態である。本講義では、中国語音韻の変遷発展の歴史と現代中国語方言における音韻の多様で複雑な分布状態をたがいに密接な関係があるものとして概観し、この視点から中国の言語文化の歴史と現状について考察する。

教科書 /Textbooks

佐藤 昭著『中国語語音史—中古音から現代音まで』白帝社、2002年3月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中国社会科学院語言研究所編『方言調査字表』商務印書館、1988年
- 周振鶴・遊汝傑著『方言與中国文化(第二版)』上海人民出版社、2006年
- 遊汝傑著『漢語方言学教程』上海教育出版社、2004年
- 『中国語言地図集(Language Atlas of China) Longman, Hong Kong, 1987
- 項夢冰ほか『漢語方言地理学—入門與実践』中国文史出版社、2005年
- 唐作藩『漢語語音史教程』北京大学出版社、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 オリエンテーション(授業の進め方)
- 第2回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声母の変遷(幫組・端組を中心に) 【中古音】【声母】
- 第3回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声母の変遷(知組・見組を中心に) 【近代音】【声母】
- 第4回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(陰声韻を中心に) 【中古音】【陰声韻】
- 第5回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(陽声韻を中心に) 【中古音】【陽声韻】
- 第6回 中古 - 近代 - 現代までの中国語韻母の変遷(入声韻を中心に) 【中古音】【入声韻】
- 第7回 中古 - 近代 - 現代までの中国語声調(四声)の変遷 【中古音】【声調】
- 第8回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(北方語を中心に) 【北京語】【中原官話】【西南官話】
- 第9回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(湖南・江西方言を中心に) 【湘語】【カン語】
- 第10回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(広東語を中心に) 【南方方言】【広東語】
- 第11回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(福建語を中心に) 【南方方言】【福建語】
- 第12回 現代中国語方言の地理的分布とその音韻特徴(客家語を中心に) 【南方方言】【客家語】
- 第13回 中国語の方言資料の収集と方言音韻の分析
- 第14回 中国語方言音でよむ中国の古典詩 【読書音】【唐代音】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業態度と討論参加... 50% レポート作成... 50%

中国語文化研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

院・社（前期）において、中国語学研究I（音声学）・中国語学演習I（音声学）を受講して基礎的知識を身につけておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語音韻史 中古音 近代音 現代音 中国語方言

中国哲学思想研究 【昼】

担当者名 /Instructor 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	地域社会研究・社会システム研究に必要とされる中国哲学思想の専門的知識を修得する。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	現代社会の課題を解決するのに貢献できる東洋の哲学智慧を身につける。	
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	地域社会研究・社会システム研究に関わる哲学的発想・創造的發展に寄与できる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国哲学思想研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国後漢時代の大思想家哲学者である王充および著作『論衡』を研究する。

教科書 /Textbooks

鄧紅著『王充新八論』および『王充新八論続編』（いずれも中国社会科学出版社）および王充の『論衡』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鄧紅著『日本の王充「論衡」研究論著提要編年』（05年出版、台北知書房出版公司、必要に応じて配る）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 - 15回
 毎回、『王充新八論』および『王充新八論続編』の目次を沿って内容を勉強し、王充『論衡』の関連文章を調べる。
 次回の授業では、先回の内容について、「Yes」と「No」の形で自分の見解を発表する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度、発表内容などによる総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『論衡』および他の学者の論考をよく読むこと。よく先生に質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化論研究 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	アメリカの文化的背景に関する専門的知識を備える。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	現実に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	文化の分野において、新しい構想・想像に寄与することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

アメリカ文化論研究

授業の概要 /Course Description

1920年代～現代のミュージカル映画と演劇について学ぶ。

教科書 /Textbooks

プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 ミュージカル以前
- 3回 1920年代のミュージカル
- 4回 1930年代のミュージカル
- 5回 1940年代のミュージカル
- 6回 1950年代のミュージカル
- 7回 1950年代のミュージカル
- 8回 1960年代前半のミュージカル
- 9回 1960年代後半のミュージカル
- 10回 1970年代のミュージカル
- 11回 1980年代のミュージカル
- 12回 1990年代のミュージカル
- 13回 2000年代のミュージカル
- 14回 現代のミュージカル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 発表...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アメリカ文化論研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習を必ず行なうこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の頭で考えてください。教師に対し理論的な戦いを挑み、倒すことを考えている院生を大歓迎します。
演習室はコロシウム。

キーワード /Keywords

【ミュージカル演劇】 【時代との関連】 【作品の種類】

米文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	アメリカ文学に関する高度に専門的な知識を備える。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	アメリカ文学に関する高度な課題解決能力を身につける。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	アメリカ文学研究に関する新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

米文学研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

論文作成のための詳細な個別指導を継続的に対面形式で行う。個別指導に沿った加筆訂正を原稿に加え続けることにより、論文を無理なく完成させることを目指す。また、論文執筆に資する文献の講読を継続的に行う。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○MLA 英語論文の手引(第5版) (北星堂)
 論文中の引用は上記の書物を参照した上で行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文の構想の策定作業 1
- 2回 論文の構想の策定作業 2
- 3回 論文執筆に関連した文献購読 1
- 4回 論文執筆に関連した文献購読 2
- 5回 論文執筆に関連した文献購読 3
- 6回 論文執筆に関連した文献購読 4
- 7回 論文執筆に関連した文献購読 5
- 8回 論文の執筆状況に関する報告 1
- 9回 論文執筆に関する指導 1
- 10回 論文執筆に関連した文献購読 6
- 11回 論文執筆に関連した文献購読 7
- 12回 論文執筆に関連した文献購読 8
- 13回 論文執筆に関連した文献購読 9
- 14回 論文の執筆状況に関する報告 2
- 15回 論文執筆に関する指導 2

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の執筆状況に関する報告50%
 文献に関する発表50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

米文学研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

【事前・事後学習の内容】

授業前に、指定された分量の論文の下書きの執筆を完了しておくこと。また、論文の執筆状況に関して、授業時に報告できるようにしておくこと。授業後は論文のテーマと関連する書籍を可能な限り閲覧した上で、指導に従って論文の下書きに加筆訂正を加えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor: ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year: 単位 /Credits: 2単位 学期 /Semester: 1学期 授業形態 /Class Format: 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	比較文化研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	比較文化研究の知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	比較文化研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

比較文化研究

授業の概要 /Course Description

This course will start with a close examination of the roots of North American and Japanese Cultures by an investigation, in English, of key patterns of communication and values to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. As the course progresses students will explore these differences to grasp the fundamental challenges that create misunderstandings and make it difficult to effectively communicate across these cultures in a global setting. Finally, they will consider effective models of communication in cross-cultural settings and then analyze and present their findings. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course.

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied and suggested by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction. What is Culture? Does it matter?
- 2回 Historical Survey of Japan and North America
- 3回 Introduction to Key Communication and Value Patterns
- 4回 Discussion based on reading materials I
- 5回 Japanese Society: Interpretations of contemporary scholars
- 6回 Discussion based on reading materials II
- 7回 Discussion based on reading materials III
- 8回 American Society: Interpretations of contemporary scholars
- 9回 Discussion based on reading materials IV
- 10回 Presentations led by students I
- 11回 Discussions on student topics I
- 12回 Presentations led by students II
- 13回 Discussions on student topics II
- 14回 Presentations led by students III
- 15回 Discussions on student topics III

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%Final 2000 word paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

比較文化研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready to discussion

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Comparative Culture, American Culture, Japanese Culture, 日米比較論

比較文学研究 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year: 単位 /Credits: 2単位 学期 /Semester: 1学期 授業形態 /Class Format: 講義 クラス /Class:

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	地域社会の文学と比較することを通して、当地域社会の文学の特色を見極める。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	地域社会と関連する文学上の課題を特定して、それらを比較文学的方法やもの見方によって解決案を策定する。	
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	海外文学との比較によって日本及び九州の地域の文学を理解するための新しい価値観や構想を検討し、地域文学のあり方を再確認する。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較文学研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この講義は博士課程後期の大学院生にふさわしい比較文学に関する知識と価値観を学生に提供するもので、比較文学の研究史 (Weltliteratur, フランス学派、アメリカ学派など) を踏まえて、影響研究、ジャンル研究、比較研究、翻訳研究、翻案研究などの実例を紹介し、研究方法を教える予定である。又、文学批評と関連する項目であるジェンダー、パラルiteraチャー、ポストコロニアリズムについても視野に入れて授業を進める方針である。

教科書 /Textbooks

インターネット資料、プリントを必要に応じて配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 What is 【Literature】? What is 【Comparative Literature】?
- 2 回 The French Tradition of Comparative Literature 【Weltliteratur】
- 3 回 【Genre】 Studies
- 4 回 【Translation】 Studies
- 5 回 The American Tradition of Comparative Literature
- 6 回 Topics of Comparative Literature
- 7 回 Is American Literature English literature?
- 8 回 Nature in Literature
- 9 回 Japanese Literature and 【National Identity】 Formation
- 10 回 Comparative Literature and Post-Colonialism 【Imperialism】
- 11 回 Critical Stances, part 1 【Literary Criticism】
- 12 回 Critical Stances, part 2 【Critical Theory】
- 13 回 【Paraliterature】
- 14 回 Recent Trends and New Areas of Inquiry
- 15 回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：30% 課題：20% 態度：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

比較文学研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Students will be expected to read a short literary work before each class and be prepared to discuss and analyze it with respect to the topic of the session.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Literature, Comparative Literature, Weltliteratur, Genre, Translation, National Identity, Imperialism, Literary Criticism, Critical Theory, Paraliterature

人間環境研究 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	人間社会の地域や文化に応じた多様性を理解し、他者認知に基づく社会性の形成や資源管理などの環境への適応など、人間性の起源に関して考察する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	フィールドワークによる社会調査によって得られた質的データの分析と考察を通じて、人間社会に関する普遍的な洞察をおこなう。
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	地域研究により人間社会のあり方を詳細に分析し、近代の限界とその超克を視野に入れた研究につなげる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

人間環境研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

小さな共同体のサブシステム研究を軸に、環境認知、資源管理、分配と流通など、文化と環境の相互作用について、生態人類学的見地から学びます。受講生は関連文献をプレビューし、議論することを通してそれぞれの研究課題につなげていきます。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマに応じて適宜選択

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに応じて適宜選択

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの設定
- 第2回 サブシステム研究の概要
- 第3回 環境人類学の先行研究
- 第4回 文献1の選定
- 第5回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第6回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第7回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第8回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第9回 文献2の選定
- 第10回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第11回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第13回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表者はプレゼンテーションの準備を入念におこなってください
参加者は事前にディスカッションに必要な資料を各自集めて下さい

人間環境研究 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

深く学びたい人のために開講している

キーワード /Keywords

人類学 生態人類学 環境人類学

多文化コミュニケーション研究 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	コミュニケーション研究の基礎となる言語学、特に意味論・語用論・社会言語学・心理言語学及び非言語コミュニケーションに関する専門的知識を備える。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	日本語/日本文化と他言語/他文化におけるコミュニケーションの形式・内容・方策等の異同や言語と文化の関係について考える能力を身につける。	
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	言語/文化に対する構造的及び機能的な研究手法を理解し、最適な方法で分析を行い、先行研究の批判的検証に立脚して、新たな視点を提供することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

多文化コミュニケーション研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本語によるコミュニケーションと他言語によるコミュニケーションの異同を、意味論・語用論、特にポライトネス理論や「公的自己」「私的自己」の概念を利用して分析する。
 さらに、近年の生成文法理論における「統語構造地図(cartography of syntactic structures)」によって、日本語・英語をはじめとする諸言語の談話的要素の分布と機能について考える。
 それらの研究を通して、言語と文化の関係について考える。

教科書 /Textbooks

廣瀬 幸生 (他)。2010年。『日本語から見た日本人』 開拓社。
 Brown, P. and S. Levinson. 1987. Politeness: Some Universals in Language Usage. Cambridge University Press.
 長谷川 信子。2007年。『日本語の主文現象』 ひつじ書房。
 その他プリント配布および受講生の興味・希望を考慮して決定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○Leech, G. 1974. Semantics: The Study of Meaning. Pelican.
 Endo, Y. 2007. Locality and Information Structure: A Cartographic Approach to Japanese. John Benjamins.
 井上 和子。2009年。その他授業時に紹介

多文化コミュニケーション研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：言語学の研究方法
- 第2回 廣瀬(他) (2010)(1) 【代名詞の使用に関する言語間の変異】
- 第3回 廣瀬(他) (2010)(2) 【伝達と情報】
- 第4回 廣瀬(他) (2010)(3) 【公的自己・私的自己】
- 第5回 Brown and Levinson (1987)(1) 【Gricean theory/The Cooperative Principle/Maxims of Conversation】
- 第6回 Brown and Levinson (1987)(2) 【Face Threatening Acts】
- 第7回 Brown and Levinson (1987)(3) 【Positive Politeness】
- 第8回 Brown and Levinson (1987)(4) 【Negative Politeness】
- 第9回 長谷川(2007)(1) 【統語地図】
- 第10回 長谷川(2007)(2) 【主文現象】
- 第11回 長谷川(2007)(3) 【「は」と「が」】
- 第12回 長谷川(2007)(4) 【格交替】
- 第13回 長谷川(2007)(5) 【モダリティ】
- 第14回 学生による発表
- 第15回 まとめ【言語と文化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 20% 発表 30% 期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 事前学習：文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）
- 事後学習：次回に行われる前回の内容についての質疑応答への準備

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化交流史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	地域社会研究・社会システム研究に普遍的な位置づけを与える思想文化的背景に関する専門的知識を備える。	○	個々の研究に必要な日本史・世界史の基礎的知識と教養、さらには外国語・くずし字・漢文史料の解読能力を身に付ける。	
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	現地調査や地域の研究者との交流を通じて、研究成果を地域社会に還元することができる。	
態度	地域社会研究・社会システム研究にもっとも関わりのある思想と文化の分野において、新しい構想・創造に寄与し、方向付けを与えることができる。	△	研究史にこだわらない独自のかつ具体的な視点から研究テーマに取り組むことができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

文化交流史研究

※思想文化領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

江戸時代における北部九州は、長崎からの中国・西洋文化の中央への伝播のルートであるとともに、これらをいち早く受容しつつ独自の地域文化を形成してきた。ここでは

1. 前近代から近代にいたるヨーロッパ・アジアの文化交流と日本社会の西欧化
2. 前近代における東アジア世界の外交システムと国家認識

というテーマを歴史学の方法論から考察したい。

教科書 /Textbooks

プリントで配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池内敏『大君外交と「武威」』（名古屋大学出版会2006）
池内敏『唐人殺しの世界』（臨川書店1999）
- 三宅英利『近世日朝関係史の研究』（文献出版1986）
三宅英利『近世の日本と朝鮮』（講談社2006）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 近世の「唐人」
- 3回 近世の国家意識
- 4回 近世の世界観
- 5回 儒学者の国家意識（1）新井白石
- 6回 儒学者の国家意識（2）その他
- 7回 外国人の「天皇」と「將軍」観
- 8回 外国人の見た近世（1）宣教師の記録
- 9回 外国人の見た近世（2）オランダ使節の記録
- 10回 外国人の見た近世（3）朝鮮通信使の記録
- 11回 漂流民の見た世界（1）東南アジア
- 12回 漂流民の見た世界（2）欧米
- 13回 漂流民の見た世界（3）中国
- 14回 鎖国と開国
- 15回 まとめ

文化交流史研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・50%、レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

履修する学生は授業の時間と場所を決めるので事前に研究室のメールアドレスに連絡してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治研究【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○ 東アジア政治を理解するために必要な専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△ 東アジアの現実の諸課題を、身につけた専門的知識を用いて深く考察する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△ 東アジア地域への深遠な理解に基づき適切に対応する力とリーダーシップを修得する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東アジア政治研究

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、主に中国の事例を通じて東アジア政治の現状を観察し、この地域の政治構造を理解することを目的とする。授業では、毎週、同じテーマに関する論文を2本以上読み、比較しながら討論する。

教科書 /Textbooks

受講者の研究課題や履修状況に応じて設定し、初回の授業で通知する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ワン・ジョン『中国の歴史認識はどう作られたのか』東洋経済新報社、2014年
 国分良成編著『中国文化大革命再論』慶應義塾大学出版会、2003年(○)
 許家屯『香港回収工作』(上・下)筑摩書房、1996年(○)
 鈴木隆『中国共産党の支配と権力 - 党と新興の社会経済エリート』慶應義塾大学出版会、2012年
 下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 党と国家の関係I(中国共産党)
- 第3回 党と国家の関係II(国民党)
- 第4回 中国の政治システム
- 第5回 一国両制の実態(香港)
- 第6回 一国両制の可能性(台湾)
- 第7回 歴史認識と統治の正統性
- 第8回 統治の正統性と今日的課題
- 第9回 文化大革命と権力闘争
- 第10回 文化大革命と大衆運動
- 第11回 改革開放の始まり
- 第12回 改革開放の定着と拡大発展
- 第13回 経済大国化と安全保障
- 第14回 中国の社会主義
- 第15回 レポートの講評と授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発言・報告・・・50%、課題提出物・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

東アジア政治研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキスト以外の専門書にも積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済研究【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	北九州と東アジア地域との経済関係について理解するために、大学院レベルの経済学及び経済事情の知識を習得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	東アジア地域が過去に直面した経済的な問題が何で、それに対してどのような対応が採られたかを理解する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	北九州地域と東アジア地域との将来の経済交流・経済関係がいかにあるべきかを考察して、政策提言できるようにする。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東アジア経済研究

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、東アジア経済を総合的に学習して、大学院レベルの知識とともに研究能力を身に付けることを目指す。まず、東アジア経済の発展過程を概観してその特徴を把握した上で、東アジア各国に大きなインパクトを与えたアジア通貨危機について検討する。そして、その後地域統合も視野に入れて活発になってきた東アジア地域での国際的ネットワーク形成の動向を把握して、将来に向けての東アジア経済の課題を学習する。

教科書 /Textbooks

授業時に必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に必要に応じて、リーディングリストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、東アジア経済への視点
- 2回～4回 東アジア経済の発展過程
- 5回～7回 アジア通貨危機の経緯と影響
- 8回～11回 東アジア経済の国際的ネットワークの展開
- 12回～14回 東アジア経済の課題
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・授業での質疑応答 ... 60% レポート ... 40%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で取り上げるテーマに関して、テキスト及び参考文献の該当箇所を事前に熟読すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

輸出志向工業化、キャッチアップ、通貨危機、地域統合

東アジア国際関係研究【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	東アジア伝統と近代の政治思想史をアジアから考える視点と文明論的な視点から捉えなおす。それにより東アジア社会圏に関する専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	身につけた学問的知識を土台に現実の地域社会に生かすとともに東アジア地域の現実を分析し、優れた課題解決能力を高める。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	身につけた学問的知識を持続的に増やし、北九州地域、東アジア地域ではもちろん、世界においてもリーダーシップをもって活躍できる能力を高める。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

東アジア国際関係研究

授業の概要 /Course Description

近代の東アジア国際関係を日本と朝鮮・韓国の両国を中心に考察する。本年度の授業では、とりわけ伊藤博文と朝鮮というテーマを取り上げる。それを通して、19世紀後半から20世紀前半に至るまでの日本と朝鮮・韓国の国際関係の変容を考究し分析する。分析方法は「構造相関的分析」、視点は「アジアから考える」という視点と「文明論的な視点」である。

教科書 /Textbooks

指定せず、本年度のテーマに沿って関連文献と史料・資料を選び、考究・分析する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本年度のテーマの関連文献と史料・資料を提供し、また受講生にも調査させる。授業は基本的に、受講生の博士論文の中間報告と討論、先生の補足説明で進められる。そのほか、必要な場合、宿題としてレポートないし論文を課し、その発表と講評を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告 30% レポート・論文 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ご自分で、本年度のテーマの関連文献と史料・資料を探し読むこと。ご自分の博士論文について報告し、完成していくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○ 東アジア社会圏理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△ 地域社会における現実の諸課題を解決するための、東アジア社会圏に関する専門的知識の応用能力を修得する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△ リーダーシップを発揮するための学問的基盤を涵養する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東アジア政治史研究

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジア政治史研究に関する最近の研究書を輪読し、研究水準や方法に関する理解を深める。ややタイトかもしれないが、ついて来て欲しい。また、適宜、くずし字を用いた原文書の解説も行なっていく。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上決定する。小林道彦『政党内閣の崩壊と満州事変』（ミネルヴァ書房、6500円）などを予定している。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『日本外交年表並主要文書』下巻、○『西園寺公と政局』、○『牧野伸顕日記』、見玉幸多編『くずし字解説辞典』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション。
第2回～14回 『政党内閣の崩壊と満州事変』の輪読。
15回 まとめ（到達点の確認）。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...50% 報告の内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに教員から提示された課題を完遂すること。授業終了後には講義中指摘された問題点を自分なりに考え、次週の講義に臨むこと。明治期の公文書の文章（例『日本外交文書』）にあらかじめ目を通しておいて下さい。受講者には、毎回レジュメによる報告をってもらう予定です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア政治研究 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○ 東アジア地域理解に必要な基礎的、専門的知識を習得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△ 地域の現実的な諸課題に、習得した専門的知識が適用可能であることを発見し、課題解決に寄与できるようにする。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△ 習得した専門的知識を生かして、実践的な提言を行い、指導力を発揮できるようにする。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア政治研究

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東南アジア諸国の政治・社会（教育を含む）・エスニシティに関する文献をまず読み、その後東南アジア諸国と日本との関係に関する文献を輪読して、報告と質疑を行う。それによって、【東南アジア諸国の政治や社会などの学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につけるとともに、東南アジア諸国と日本との関係の今後を自ら考え、行動できるような人材の育成】を目指す。

具体的なテーマは受講生の関心や知識によって決めるが、今年度は特に東南アジア諸国における日本占領に焦点を当て、日本占領がどのように生徒・児童に教えられ、どのように国民の記憶となり、国民統合に位置づけられているのかを、シンガポールの学校で使用されている歴史教科書を受講生と読んで議論し、さらに、教育とナショナリズム、国民国家建設についても議論してみたい。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上で決定するが、候補としては以下3つを考えている：

- (1)From Colonies to Independent Nations: Selected Studies in Southeast Asian History
シンガポールの中高等教育機関で使用されている歴史の最新の教科書。コピーして配布する。
- (2)Michael Leifer, Asian Nationalism, Routledge, 2000.
- (3)Kevin Blackburn and Kark Hack, War Memory and the Making of Modern Malaysia and Singapore, NUS Press, 2012.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(1)について

- 後藤乾一『近代日本と東南アジア：南進の「衝撃」と「遺産」』岩波書店、2010年
- 倉沢愛子他編集委員『岩波講座 アジア・太平洋戦争』岩波書店、2005年
- 倉沢愛子編『東南アジア史のなかの日本占領』早稲田大学出版会、1997年

(2)(3)について

- 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年
- 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年

東南アジア政治研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2回～4回 From Colonies to Independent Nationsを3回に分けて輪読、議論する
- 第5回～8回 Asain Nationalism およびWar Memoryのなかから教員が指示した箇所を輪読、議論する
- 第9回～11回 日本占領期の教育について、教員が指示したテーマを報告する
- 第12回～13回 各受講生はこれまで議論したことのなかから各自のテーマを見つけて報告し、議論する
- 第14回 全体討論
- 第15回 全体討論、課題レポートの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告や議論の内容 70%、レポート30%
- なお、出席状況が悪い場合は減点をすることがあるので注意して欲しい

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

- 東南アジア、日本占領、国民国家建設、教育、ナショナリズム

東南アジア歴史文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○ 東南アジア歴史研究の現状と課題、論争点などにつき把握する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△ 東南アジア社会の特質を歴史的背景から考える能力を獲得する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△ 地域社会で活動する際に、当該地域の歴史的背景の理解の重要性を認識する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア歴史文化研究

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東南アジア諸国が抱える現代的課題を分析する上での歴史的・文化的アプローチについて考える。
あわせて、オリエンタリズム的認識の克服方法について学ぶ。
但し、受講者の研究内容を踏まえて変更する場合もある。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第2回～第14回：分担を決めた上で、各人に報告してもらう。
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容及び議論への参加度 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

その都度、指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ市民政治論研究 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○ 東アジアの政治発展に深い関わりを持ったアメリカ合衆国の市民政治の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△ アメリカ合衆国の市民文化に関する専門知識を活用しながら、様々な地域の政治の課題を解決できる能力を修得する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△ 生活する地域からグローバル社会まで広がる権力関係と、そこでの自分の立ち位置を理解しながら、何を行動すべきか判断する能力と決断力を修得する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ市民政治論研究

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の市民文化について政治学的・歴史学的な理解を深めることを目的とする。アメリカ社会における市民理念を検討した文献を紹介するとともに、その著者のアプローチを使った分析手法を現代アメリカに適用した考察を行う。講義の前半では、アメリカ政治と政治史の基礎文献を紹介し、そのエッセンスを示す。後半では、前半に紹介したアプローチをもとに、現代社会における市民の位置づけを受講者の主体的参加を促しながら、ともに考えていく。

教科書 /Textbooks

受講者の関心をもとに、ガイダンス時に決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【研究史整理】 【方法論】
- 第2回 自由主義社会論 【自由主義】
- 第3回 トクヴィルのアメリカ 【政治参加】
- 第4回 アメリカにおける社会問題への取り組み 【社会政策】
- 第5回 アメリカにおける中産階級社会 【中産階級】
- 第6回 アメリカ革命とは何か 【アメリカ革命】
- 第7回 共和主義の伝統 【共和主義】
- 第8回 「民主主義」の多様性 【民主主義】
- 第9回 奴隷制の遺産 【奴隷制】
- 第10回 アメリカにおけるナショナリズム 【ナショナリズム】
- 第11回 アメリカにおける保守主義 【保守主義】
- 第12回 アメリカ市民文化を支えるもの 【キリスト教】
- 第13回 政治における実験主義 【プログマティズム】
- 第14回 現代外交と自由主義政治 【冷戦】 【テロとの戦い】
- 第15回 授業の総括 【市民政治】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アメリカ市民政治論研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて学習すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

参考文献を数多く読みますので、あらかじめ十分に学習してから授業に参加し、授業後は復習してください。

キーワード /Keywords

アメリカ 市民文化

イギリス社会研究【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	東アジア社会圏と関連付けながら、イギリスに関する専門的知識を備える。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	イギリス社会研究を通じて、現実にある課題の解決能力を身につける。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	イギリス社会研究を通じて、地域や世界で通用するリーダーシップを修得する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス社会研究

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

かつての覇権国家であり、現代世界においても一定の影響力を保持しているイギリスの現状に関して、社会の成り立ち、文化の多様性などを多面的に取り上げ、現代世界のありように迫る一助とする。関連する英語文献を毎週1冊ずつ読み、内容を報告する。

教科書 /Textbooks

授業の際に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 文献の講読とそれに基づく議論
- 3回 文献の講読とそれに基づく議論
- 4回 文献の講読とそれに基づく議論
- 5回 文献の講読とそれに基づく議論
- 6回 文献の講読とそれに基づく議論
- 7回 文献の講読とそれに基づく議論
- 8回 文献の講読とそれに基づく議論
- 9回 文献の講読とそれに基づく議論
- 10回 文献の講読とそれに基づく議論
- 11回 文献の講読とそれに基づく議論
- 12回 文献の講読とそれに基づく議論
- 13回 文献の講読とそれに基づく議論
- 14回 文献の講読とそれに基づく議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

イギリス社会研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解してから授業に臨むこと。取り上げた文献の書評などもあらかじめ読んでおくこと。授業後は授業で得られた知見をもとに、テキストを再度確認しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力研究 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	東アジアを中心に広く国際協力に関する専門的知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	国際社会が抱える諸課題を国際協力の観点から解決する能力を身につける。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	修得した知識を実務に生かすキャリア・パスを形成できる。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア社会圏領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

国際協力研究

授業の概要 /Course Description

国際開発援助の歴史を国際政治の文脈から捉え直し、国際開発と国際政治とがどのようにリンクしているのかについて考察し、そこに認められるダイナミズムについて理解を深めます。そのうえで、受講生は、国際開発が新興国の台頭という新たな状況の出現によって、今後どのように変化するのかを考察できるようになります。新興国の中でも、とりわけ中国と韓国の開発協力で着目し、日本の援助経験と照らし合わせながら、東アジア3か国の開発協力のあり方について考えます。

教科書 /Textbooks

Jin Sato and Yasutami Shimomura eds. (2013) The Rise of Asian Donors: Japan's impact on the evolution of emerging donors, London: Routledge.
Yasutami Shimomura and Hideo Ohashi eds.(2013) A Study of China's Foreign Aid: An Asian Perspective, Hampshire: Palgrave Macmillan.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○Carol Lancaster, Foreign Aid: Diplomacy, Development, Domestic Policies, Univ of Chicago Press, 2006.
○Louis A. Picard, Robert Groelsema and Terry F. Buss eds., Foreign Aid and Foreign Policy, M E Sharpe Inc., 2007.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 被援助国からドナーへ (1) 1950年代の日本
- 第3回 被援助国からドナーへ (2) 米国の思惑
- 第4回 被援助国からドナーへ (3) 冷戦構造と日本のODA
- 第5回 世界銀行プロジェクトの影響 (1) 技術移転
- 第6回 世界銀行プロジェクトの影響 (2) 農村開発
- 第7回 ドナーの援助が中国に与えた影響 (1) 中国の経済発展
- 第8回 ドナーの援助が中国に与えた影響 (2) 中国の外交政策
- 第9回 三位一体型の日本の援助 (1) 日本の援助方式
- 第10回 三位一体型の日本の援助 (2) 中国への影響
- 第11回 援助新興国韓国 (1) 日本の影響
- 第12回 援助新興国韓国 (2) 韓国の援助行政
- 第13回 インドの援助政策と日本の役割 (1) 日本の援助実績
- 第14回 インドの援助政策と日本の役割 (2) インドの援助政策
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・40% 課題・・・60%

国際協力研究 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英語文献を用いるので、相当の読解力を必要とします。また、専門分野である国際協力・開発援助についても知識を有していることが望まれます。

事前に該当箇所をしっかりと読んでから講義に臨んでください。事後学習としては参考文献リストを提示するので、その中からいくつかの文献を読むようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Multinational Corporations 【昼】

担当者名 /Instructor エリック・ラムステッター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○ 多国籍企業の実際とその分析を行う上での専門知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△ 理論や手法を分析に利用した課題解決能力を習得する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△ 学術的研究を背景にしたリーダーシップを発揮する能力を習得する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

Multinational Corporations

※国際開発政策コース以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course studies the methodologies economists use to analyze the behavior of multinational corporations (MNCs) and analyses of MNC behavior in Asian economies, with heavy emphasis on how to read and understand the empirical literature related to Asia.

教科書 /Textbooks

Caves, Richard E. (2007) *Multinational Enterprise and Economic Analysis*, third edition. Cambridge, UK: Cambridge University Press.
 Moran, Theodore H. (2011) *Foreign Direct Investment and Development: Launching a Second Generation of Policy Research*. Washington, D.C.: Peterson Institute for International Economics.
 Ramstetter, Eric D. and Fredrik Sjöholm, eds. (2006) *Multinational Corporations in Indonesia and Thailand: Wages, Productivity, and Exports*. Hampshire, UK: Palgrave Macmillan.
 Rugman, Alan R. and Thomas L. Brewer eds. (2001) *The Oxford Handbook of International Business*, Oxford: Oxford University Press.
 その他の論文を約15編。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Long list (hundreds or thousands) available from instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction, Caves ch 1, 2, 10; Moran ch 1
- 2 回 Caves ch 3, 4, 5
- 3 回 Caves ch 6, 7, 8
- 4 回 Rugman and Brewer ch. 2, 3, 1 more journal reading
- 5 回 Caves ch 9; Moran ch 2, 3, 4, 5
- 6 回 Moran ch 6, 7, 8, 9, 10
- 7 回 Data issues (3 readings)
- 8 回 Determinants of MNC activities (3 readings)
- 9 回 Presentation of Student Paper Outlines
- 1 0 回 MNCs, growth, and productivity in Asia (3 readings)
- 1 1 回 MNCs, growth, and productivity in Asia (continued, (3 readings)
- 1 2 回 MNCs and labor in Asia (3 readings)
- 1 3 回 MNCs and exports in Asia (3 readings)
- 1 4 回 MNCs, producer concentration, and the environment in Asia (3 readings)
- 1 5 回 Review for test (30min); test (60min)

Multinational Corporations 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

論文=50% 試験=20% 担当する教科書論文の発表及びA4一枚のアウトライン=30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read texts (especially Caves) in advance; review the basics of (1) theory of the firm, (2) industrial organization, (3) international economics, and (4) econometrics

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Economic Growth and Development 【昼】

担当者名 /Instructor 今井 健一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	経済開発に係わる専門知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	理論や手法を分析に利用した課題解決能力を習得する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	学術的研究を背景にしたリーダーシップを発揮する能力を習得する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム(政治・経済・文化)を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

Economics of Population Aging

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Why some countries are richer than others and why some countries' economies grow faster than others are big and complicated issues. In this course students learn firstly basic theories of economic growth and factors that lead to economic growth and development and secondly real-world issues in developing countries. A goal of this course is that students find out their own answers to the issues mentioned above by deepening their understanding of a wide range of real-world issues as well as basic theories. During the course students are requested to make class presentations on the reading materials selected by an instructor.

教科書 /Textbooks

Meier, Gerald M. and Rauch, James E. (2005) Leading Issues in Economic Development, eighth edition. New York: Oxford University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ray, Debraj (1998) Development Economics. New Jersey: Princeton University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction: Measuring development.
- 2 回 Introduction: Economic performance in developing countries
- 3 回 Theories of economic growth (1)
- 4 回 Theories of economic growth (2)
- 5 回 International trade and technology transfer (1)
- 6 回 International trade and technology transfer (2)
- 7 回 Human resources: Education, population, health, gender
- 8 回 Urbanization and the informal sector (1)
- 9 回 Urbanization and the informal sector (2)
- 10 回 Agriculture
- 11 回 Income distribution (1)
- 12 回 Income distribution (2)
- 13 回 Political economy
- 14 回 Development and the environment (1)
- 15 回 Development and the environment (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation (20%), class presentation (30%), and term paper (50%)

Economic Growth and Development 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students must read relevant chapters in the textbook or articles assigned by an instructor in advance of each class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Economic growth, Economic development, Developing countries

担当者名 /Instructor 戴 二彪 / DAI Erbiao / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○ 人口移動と経済開発の関係に係わる専門知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△ 理論や手法を分析に利用した課題解決能力を習得する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△ 学術的研究を背景にしたリーダーシップを発揮する能力を習得する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

International Migration and Economic Development

※国際開発政策コース以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

International migration is one of the most notable global phenomena in recent decades. This course, International Migration and Economic Development, aims to enable participants 1) to have good understanding on the trends and mechanism of modern international migration; 2) to have a balanced view on the positive and negative effects of international migration on the economic development of both source countries, particularly some Asian countries such as China and India, and destination countries such as Japan and USA; 3) to master some appropriate approaches for empirical studies.

教科書 /Textbooks

Bodvarsson and Van den Berg, 2009, The Economics of Immigration: Theory and Policy, Springer

Robert E.B. Lucas, 2005, International Migration and Economic Development, Edward Elgar Publishing, Inc.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Bhagwati and Hanson, 2009, Immigration Today: Prospects, Problems, and Policies, Oxford University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

This course is composed of 15 lessons, which are temporarily schedule as follows.

- (1) International migration: definition and historical review
- (2) Causes of international migration
- (3) Spatial pattern and underlying factors of international skilled migration
- (4) Spatial pattern and underlying factors of international unskilled migration
- (5) Spatial pattern and underlying factors of international student migration
- (6) International migration to USA: history, policy evolution, and recent trends
- (7) International migration to (in) EU: history, policy evolution, and recent trends
- (8) International migration to Japan: history, policy reform and recent trends
- (9) Effects of international migration on source country's economic development
- (10) Effects of international migration on destination country's economic development
- (11) International migration from developed countries to developing countries
- (12) Contribution of returned brains to Asian source country: The cases of China
- (13) Contribution of returned brains to Asian source country: The cases of South Korea
- (14) Contribution of returned brains to Asian source country: The cases of India
- (15) How to design policy system for managing international migration in the era of globalization?

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and class discussion: 50%; Term paper:50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Some other references for each lesson will be distributed to students two weeks before lesson. Students are asked to read the references in advance.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The contents and schedule of the lecture are flexible. If you have any questions, please e-mail to dai@icsead.or.jp.

キーワード /Keywords

International Migration, Economic Development, Asia, China

Numerical Analysis 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 博 / Sakamoto Hiroshi / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	北九州と地理的・歴史的に深いつながりをもつ東アジア社会圏に関する専門的知識を備える。	○	数量分析に関わる専門知識を修得する。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	△	理論や手法を分析に利用した課題解決能力を習得する。
	北九州地域、東アジア、世界においてもリーダーシップをもって活躍することができる。	△	学術的研究を背景にしたリーダーシップを発揮する能力を習得する。
態度	東アジア社会圏のさまざまな地域社会の社会システム（政治・経済・文化）を個別的・実証的に研究することができる。		

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

Numerical Analysis

※国際開発政策コース以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course aims to teach the technique of numerical analysis necessary for the dissertation making. Some part of the course is lectures, but mainly it asks participants to collect and analyze actual data. The analysis theme is based on each participant's need. Therefore, the technique for teaching will be adjusted accordingly.

教科書 /Textbooks

References and texts for each technique will be distributed to class participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References and texts for each technique will be distributed to class participants.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- The following techniques will be presented:
- (1) Basic statistical analysis (mean, variance)
 - (2) Basic statistical analysis (correlation)
 - (3) Inequality index (Gini coefficient, Theil index)
 - (4) Other index (Herfindahl index)
 - (5) Regression model (time series)
 - (6) Regression model (cross session)
 - (7) Regression model (panel data)
 - (8) Regression model (micro data)
 - (9) Data Envelopment Analysis
 - (10) Other mathematical model
 - (11) Input-Output model
 - (12) Computable General Equilibrium model
 - (13) Macro model
 - (14) Other simulation model
 - (15) Others

成績評価の方法 /Assessment Method

Complete term paper (excellent: submitting level analysis; good: almost complete analysis; fair: partly complete analysis; failure: others).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Numerical Analysis 【昼】

履修上の注意 /Remarks

First of all, students must introduce topics of research. Next, they collect the data to analyze topics of research beforehand if it is possible. Also, they should be able to use Excel.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (D)IIA 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 他 各研究指導教員

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する高度な専門的知識を備える。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	◎ 学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、より優れた課題解決能力を身につける。
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	◎ 地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、より実践的な政策提言に繋げることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 (D) II A

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

2年次に博士論文作成のために、個別的・具体的な指導を行うことを目的とする。テーマの設定・資料やデータの収集分析の方法・論点の明確化及び執筆上の技術などについて指導を行い、博士論文作成資格取得のための予備論文を作成させる。学内の研究報告会等において予備論文を報告させる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、個別に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
最初の授業において提示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と研究報告の内容によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要に応じて、その都度指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (D)IIB 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 他 各研究指導教員

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 地域の都市社会（アーバン・コミュニティ）の法的・政治的・社会的・経済的・文化的諸課題に関する高度な専門的知識を発展させる。
技能	学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、優れた課題解決能力を身につける。	◎ 学問的知識を現実の地域社会に活かすことのできる、より優れた課題解決能力を発展させる。
態度	地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、実践的な政策提言に繋げることができる。	◎ 地域の都市社会における課題を見定め、その構造を分析・探究し、より実践的な政策提言に繋げる能力を高める。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 (D) IIB

※地域社会領域以外の学生は、自領域のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

2年次に博士論文作成のために、個別的・具体的な指導を行うことを目的とする。テーマの設定・資料やデータの収集分析の方法・論点の明確化及び執筆上の技術などについて指導を行い、博士論文作成資格取得のための予備論文を作成させる。学内の研究報告会等において予備論文を報告させる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、個別に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
 最初の授業において提示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と研究報告の内容によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要に応じて、その都度指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords